

第 45 回 臨時総会 会長挨拶

本日、社団法人日本陸用内燃機関協会の第 45 回臨時総会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

時節柄なにかとご多用にも関わらず、ご出席いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

また、平素より当協会の運営につきましては、格別のご指導・ご支援を賜りここに改めて御礼申し上げます。

さて、3月11日に発生しました東日本大震災は、当協会会員企業様のみならず、製造業を始めとした多くの企業の生産活動、市民生活へ甚大な被害を及ぼしました。特に H23 年度上期については、サプライヤー様からの部品供給遅延や、首都圏での計画停電の影響により大きな混乱が発生しました。一方、世界経済をみますと、欧州財政危機の深刻化や米国景気減速など先進国では財政不安が顕在化し、この影響により対ドルでは史上最高値を更新する円高が進行しております。新興国や資源国の経済成長は引き続き堅調に推移していますが、中国の金融引き締めによる景気減速が懸念されるなど、予断を許さない状況が続いております。

このような状況の中、当協会ではエンジンメーカー 22 社を対象にアンケート調査を実施し、平成 23 年度の陸用内燃機関の生産と輸出の中間見通しを纏めました。

ディーゼルエンジンの「生産」見通しは、台数で対前年比 21% 増の約 148 万台、金額では前年比 17% 増の 3921 億円であります。

ガソリンエンジンの「生産」見通しは、台数で 12.5% 減の約 397 万台、金額では前年比 6% 減の 878 億円であります。

ディーゼルエンジンのエンジン単体「輸出」の見通しは、台数で前年比、約 18% 増の 92 万台、金額では前年比約 19% 増の 2,446 億円であります。

ガソリンエンジンのエンジン単体「輸出」の見通しは、台数で前年比、約 6% 減の約 188 万台。金額では、1.6% 減の 407 億円となります。

中間見通しで述べさせて頂いておりますが、増加の要因としては、震災復興需要である発電機、建機向けの需要があげられ、海外市場の新興国や資源国も

好調を維持し、特にディーゼルエンジンが、順調に回復してきております。

また、ガソリンエンジンの国内生産の大幅ダウンは、携帯用ガソリンエンジンの排出ガス2次規制が、2011年1月から実施されたことに伴う2010年12月までの駆け込み需要への生産対応が大きく影響しているものと思われます。

本年の就任時にご挨拶させて頂いたとおり、陸内協は《3つの新時代》、すなわち「環境対応の新時代」、「グローバル化の新時代」、「協会の組織・運営の新時代」をキーワードに掲げて活動を実施しております

例えば通常の活動に加え、10月には中国の排ガス規制情報や市場状況を確認するために、関係者を派遣し関係当局と協議を持ちました。

中間見通しからも見て取れますように、現在、当業界は新興国の台頭、急激な円高による製造業のグローバル化、厳しい環境規制等の激しく変わる厳しい事業環境に直面しております。

当業界が将来も堅実な成長と発展を維持継続していくためにも会員各社様が、それぞれに柔軟な対応や、競争力強化に向けた取り組みが必要であることは言うまでもありません。

陸内協と致しましても、3つの新時代にしっかりと対応し、会員各社様へのサポートをするという役目を果たし続けていくことが、重要な使命と考えており、最終的には我々の活動が、地球環境改善等の社会貢献や業界の発展につながるものと信じておりますので、今後共、ご協力の程御願ひ申し上げます。

最後になりましたが、協会メンバー各社、皆様の一層のご活躍とご健勝を祈念致しまして、第45回臨時総会の挨拶とさせていただきます。